

同時資料提供

大阪市政記者クラブ
大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ
関西レジャー記者クラブ

平成27年5月8日
大阪市立自然史博物館
Tel: 06-6697-6222

大阪市立自然史博物館 第46回特別展
「たまごとたね -いのちのはじまりと不思議-」
を開催します

大阪市立自然史博物館では、平成27年7月18日(土)から10月18日(日)まで、特別展「たまごとたね -いのちのはじまりと不思議-」を開催します。



タマゴとタネは、丸くて硬い殻を持ち、両者とも生命の誕生の象徴にされるなど、共通したイメージがあります。しかし、その構造は全く異なり、生態にも大きな違いがあります。たとえば殻を持つようなタマゴの多くは動くことができません。このため、親が様々な方法でタマゴを守っています。一方で、自分では動けない植物にとって、タネの時期は動ける数少ないチャンスです。このためタネには分布を広げるための様々な工夫が施されています。

この特別展では、多様なタマゴ、タネを展示するとともに、タマゴとタネを「対決」という形で比較しながら、両者の子孫を残すためや分布を広げるための仕組みについて紹介していきます。

世界最大のタネ・フタゴヤシや、いま生きている鳥の中では最大のダチョウのタマゴも登場します。そのほか、黒い色をしたエミューのタマゴ、鮮やかな青い蛍光色のタネを持つタビビトノキ、「悪魔の爪」の異名を持つツノゴマなど、様々なタマゴやタネを展示します。

展示を通じて、タマゴやタネの知られざる生態や仕組み、そしてそれぞれの生き残りをかけた、たくましい戦略も知っていただければと思います。

○プレス内覧会を、開幕前日の平成27年7月17日(金)午後0時30分より、自然史博物館 本館 集会室で行います。プレス内覧会取材申込書にて前日までにファックスでお申込みください。なお、一般内覧会も午後2時より引き続いて行います。

○広報用写真、読者・視聴者プレゼント用の招待券をご用意しています。広報写真申込書、招待券申込書もファックスでお申込みください。

I. 開催概要

1. 名称 特別展「たまごとたね ―いのちのはじまりと不思議―」
2. 主催 大阪市立自然史博物館
3. 会期 平成27年7月18日(土)～10月18日(日)
※開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）
4. 休館日 月曜日（ただし、月曜日が休日の場合はその翌日）
5. 会場 大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール
（花と緑と自然の情報センター2階）
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23
TEL：06-6697-6221 FAX：06-6697-6225
HP：http://www.mus-nh.city.osaka.jp/
地下鉄御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR 阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m
6. 観覧料 大人500円、高校生・大学生300円
※本館（常設展）とのセット券は、大人700円、高大生400円。
※中学生以下、障がい者手帳など持参者（介護者1名を含む）、
大阪市内在住の65歳以上の方は無料（要証明）。30人以上の団体
割引あり。
※本館（常設展）、長居植物園への入場は別途料金が必要です（セ
ット券を除く）。

II. 展示の構成・内容

世界一のたまごとたね

ダチョウのタマゴや世界一大きなタネといわれるフタゴヤシのタネを紹介します。フタゴヤシの巨大な葉も展示します。

ひろがるたまごとたね

動けない植物は様々な方法を用いて、自分の子孫であるタネを遠くへ飛ばす工夫をしています。また、一部のタマゴも風や水に運ばれて、分布を広げていきます。ここでは風や水の流れによって旅をするタネ、タマゴを展示し、遠くまで広がるのはどちらか対決をします。

過保護な親たち

動物は動けないタマゴを守るために隠したり、世話をしたりして動けないタマゴを守っています。一方、植物は栄養満点のタネが簡単には食べられないように硬い殻で守られているものがあります。植物と動物ではどちらが過保護かという対決を通じて、タマゴ・タネを守るための工夫を紹介します。

数の不思議

動物・植物とも小さいタマゴ・タネをたくさんつくる種類もあれば、大きいタマゴ・タネを少ししかつからないものもあります。この両者の数の大小の意味を考えるとともに、ここではタマゴ・タネが大きさ、多さなどで対決します。

色と形不思議

タネというと黒っぽくて硬くて丸い、タマゴというと白くて丸いイメージがありますが、ここではそのようなイメージとはかけ離れた、きれいな色をして目立っているもの、逆に周りの環境に溶け込むような色・形をしているタマゴとタネを展示します。どちらがきれいか、どちらがうまく隠れているかなどの対決を通して、多様な色・形の意味を考えます。

たまごとたねの起源と進化

タマゴやタネの化石を展示し、タマゴとタネの起源について解説します。また、タマゴやタネで共通してみられる耐乾性や休眠などの性質についても紹介します。

たまごとたねの利用

タマゴは卵焼きやタラコ、タネはコショウなど各種調味料として日常の食卓にも上りますが、そのほかにも装飾品、繊維など様々な場面で利用されています。食べられたり、使われたりしている様々なタマゴ・タネを展示し、おいしさ、役立ち度で対決します。

生品展示

ブラインシュリンプ、マダラウミウシ、スクミリンゴガイ、タナゴ類等などの生きものの展示も行います。会期中にタマゴを見られるかも？

※ここでは果実も含んだ植物の散布体として「タネ」という言葉を用いています。

Ⅲ. 主な展示（これらの資料は広報目的でのみご利用いただけます）

1. タマゴとタネ



タマゴもタネも、それぞれ様々な色や形があり、子孫を残すための工夫が施されています。

2. タマゴいろいろ



鳥のタマゴには様々な色や形があります。タマゴの殻に色や模様を付けるのは鳥だけです。青いタマゴから赤いタマゴまで、さまざまな色があります。

3. エミューのタマゴ



エミューはオーストラリアにいる巨大な飛べない鳥で、ダチョウに次いで大きなタマゴを産みます。鳥の中では珍しい黒っぽい色のタマゴを産みます。

4. ダチョウのタマゴ



現在生きている鳥で一番大きなタマゴを産むのはダチョウです。

5. エナガのタマゴ



日本で一番小さいタマゴの一つです。一円玉より小さいくらい。この小さなタマゴから、小さなヒナが孵ります。

6. コルリのタマゴ



青いタマゴを産む鳥は、他にもサギ類、ムクドリなどいくつかのグループに分かれて存在します。こうした鳥たちが、何のために青いタマゴを産むのかは判っていません。

7. ウミガラスのタマゴ



ウミガラスは、断崖絶壁の岩だなにタマゴを産みます。タマゴが転がり落ちにくいように、片方がとても尖った形をしている（転がってもクルンと回るだけ）と考えられています。

8. スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の卵



スクミリングガイは南米原産の淡水性巻き貝です。日本では食用養殖目的で1980年代に輸入され、それらが投棄されたり逸出したりして、主に関東以西の水田や河川に定着しています。卵膜はピンクという特徴的な色をしており、水面より上の土手などに産みつけるためとても目立ちます。(淀川・城北ワンドにて。河合典彦氏撮影)

9. 海ぞうめん（アメフラシ類の卵）



春先に磯へ行くと、黄色いそうめんのようなものが転がっています。これはアメフラシ類の卵です。正確には卵のう（卵の入った袋）で、中に黄色い卵がたくさん詰まっています。（大阪府岬町・長崎海岸にて）

10. ホウネンエビとその乾燥卵



10-a. ホウネンエビ



10-b. ホウネンエビの卵

鰓脚類（ミジンコの仲間）の卵は乾燥に耐え、再び水に出会うとふ化するという特徴を持っています。日本の水田に生息する大型の鰓脚類のホウネンエビは、田植えの時期になると土の中にあつた卵がふ化し、急速に成長して水田から水が落とされる夏までには産卵を終えま（写真はメスで、矢印が卵）。卵は翌年の春まで土の中で乾燥して休眠状態となります。卵の直径は約0.2mm。（大阪府産）

11. アカニシとその卵のう



巻き貝の多くは、卵のうという袋を作ってその中に卵を産み込みます。大型で食用にされるアカニシも、春から夏にかけて薙刀（なぎなた）のような細長い卵のうをたくさん産みます。本来はカキや岩の上に産み付けますが、写真のように他のアカニシの殻の上に産むこともあります。昔の子どもたちはこの卵のうを「海ほおずき」と呼び、中身を抜いたものを口にくわえて息を吹き込み、音を鳴らす遊びをしていました。（岡山県内のスーパーにて）

12. ネコザメのタマゴ



ネコザメは、生殖方法としては体内受精をおこない、卵生と胎生をもつ軟骨魚類のタマゴは大きく数が少ないのが特徴です。卵生の場合はさらに硬い卵殻に包まれるのが特徴です。ネコザメのタマゴはとても大きく、長さは10cmを越え、卵殻には螺旋状の張り出しがあります。

13. ドロメのタマゴ



硬骨魚類のタマゴは小さく、卵径は1~2mmくらいで、水に浮く浮性卵と沈む沈性卵に分けられます。沈性卵は粘着糸などで岩や海藻につくものが多いです。ハゼ類は石の下などを利用した簡単な巣にタマゴを産み付け、雄がふ化まで保護をします。

14. ダイナンギンポのタマゴ



硬骨魚類のタマゴは小さく、卵径は1~2mmくらいで、水に浮く浮性卵と沈む沈性卵に分けられます。ダイナンギンポは沈性卵を産みますが、産み出されたタマゴは、ボール状に丸められ、雄がからだを巻き付けることによってふ化まで保護されます。

15. ルリタテハのタマゴ



チョウのタマゴには複雑な表面構造をもつものも少なくありません。

16. コオイムシのタマゴ



コオイムシのオスは背中に産み付けられたタマゴを孵化まで保護します。

17. ナミテントウのタマゴ



赤と黒の派手な模様のテントウムシは、タマゴも艶のある鮮やかな黄色で、幼虫の食べ物であるアブラムシがついている植物の葉や幹などに産み付けられることが多いです。

18. フタゴヤシ



フタゴヤシの種子は世界最大といわれ、重さは10kg 近くにもなります。この重さのため海流によって分布を広げることができず、生育地はインド洋のセーシェル諸島の二つの島のみに限られています。大きなタネからの芽生えもやはり大きく、成木になると 30mほどにもなり、非常に大きな葉をつけます。

19. アルソミトラ



風を利用してタネを遠くに飛ばす植物は数多く知られていますが、アルソミトラもその一つです。大きく平たい種子の周囲には幅の広い翼がついており、果実から落ちるとグライダーのようにふわふわと滑空していきます。

20. タビビトノキ



タネは形だけでなく色も様々です。中にはとてもカラフルできれいなタネもあり、特にめずらしい青色のタネをつけるのがタビビトノキです。

21. 海流散布のタネ



ヤシ科、ヒルガオ科、アオイ科、サガリバナ科など様々なグループの種子が海流に乗って長い距離を旅します。これらのタネには水に浮きやすいように中に空間があったり、果実がコルク質になっていたりして、水に浮きやすい構造になっています。

22. ひっつきむし

動物に「ひっついて」移動することを選んだ植物のタネはひっつきむしです。動物にひっつく方法は種類によって様々で、ヘアピンのような構造で繊維にひっかかるもの、固いフック状の刺でひっかかるもの、粘液をだしてひっつくものなどがあります。



22-a. ツノゴマ



22-b. ライオンゴロシ

23. 恐竜の卵化石



フランスの白亜紀後期（約7000万年前）の地層から見つかった竜脚類恐竜の卵化石。竜脚類は大人になると、巨大なもので30m以上もの大きさまで成長するが、その赤ちゃんはとても小さかったことがタマゴの大きさ（約20cm）からわかっています。

IV. 関連行事

子ども向けワークショップ、普及講演会、セミナーなどを行います。

<自然史オープンセミナー>

「虫のたまご、貝のたまご」

無脊椎動物にも、いろいろな色や形をしたタマゴがあります。昆虫と貝を例に、その生態との関わりも交えて、お話をします。

日時：平成27年9月19日（土）午後1時～午後3時

講師：初宿成彦学芸員、石田惣学芸員

場所：自然史博物館 集会室

対象：どなたでも参加できます

参加費：無料（ただし、博物館入館料が必要）

申込み：不要です、直接会場へお越しください。

「魚のたまご、鳥のたまご」

水中の魚のタマゴから、陸上に産まれる鳥のタマゴへ。脊椎動物のタマゴは大きく変化しました。爬虫類のタマゴも交えて、タマゴの多様性を考えてみます。

日時：平成27年10月17日（土）午後2時～午後3時

講師：波戸岡清峰学芸員、和田岳学芸員

場所：自然史博物館 集会室

対象：どなたでも参加できます

参加費：無料（ただし、博物館入館料が必要）

申込み：不要です、直接会場へお越しください。

<普及講演会>

「タマゴの模様をめぐる托卵鳥と宿主の共進化」

自分では子育てをせず、他個体の巣にタマゴを生み込み世話をさせる鳥がいます。このような托卵を行うものとしてカッコウが有名です。カッコウのヒナはふ化直後に他のタマゴやヒナを巣外に放り出して巣を独占してしまうので、托卵を受け入れた個体は自分の子供を残すことができません。しかし、卵模様を手がかりにして托卵を認識排除できる能力を持つ鳥の存在が知られています。本講演では、托卵する側とされる側のタマゴの模様をめぐる攻防について紹介します。

日時：平成27年7月18日（土）午後1時～午後3時

場所：自然史博物館 講堂

講師：高須夫悟氏（奈良女子大学理学部化学生命環境学科）

対象：どなたでも参加できます
参加費：無料（ただし、博物館入館料が必要）
申込み：不要です、直接会場へお越しください。

「タネのはなし、ときどきタマゴも」

陸上生活への適応の完成形として、爬虫類の殻をもったタマゴと種子植物の種子（タネ）がよく取り上げられます。どちらも、次世代をにやう大切な宝物として、乾燥や破壊を免れるための工夫がなされ、新生活を有利に始められるように豊富な栄養物質が詰め込まれています。タネの場合はさらに、親植物には叶わなかった新天地の開拓という夢まで託されています。タネの形に秘められた、さまざまな工夫を考えてみます。タマゴとの比較が、思わぬヒントを与えてくれることもあるでしょう。

日時：平成27年8月15日（土）午後2時～午後4時

場所：自然史博物館 講堂

講師：岡本素治氏（きしわだ自然資料館 館長）

対象：どなたでも参加できます

参加費：無料（ただし、博物館入館料が必要）

申込み：不要です、直接会場へお越しください。

<室内実習>

室内実習「ウニの受精と発生を観察しよう」

動物のタマゴの初期発生を観察するのに、ウニはとてすすぐれた材料です。この実習ではムラサキウニ（予定）を使い、顕微鏡で卵の受精と卵割の様子などを観察します。

日時：平成27年8月9日（日） 午前11時～午後4時

場所：自然史博物館 実習室

対象：中学生以上

定員：18名（定員を超えた場合は抽選）

参加費：無料

その他：抽選の結果や参加方法などは返信でお知らせします。

申込み：往復はがき、または電子メールに「ウニの受精と発生を観察しように参加希望」と明記の上、参加者全員の氏名、年齢、住所、電話番号、返信連絡先（往復はがきには返信用の宛名）を書いて、7月27日（月）までに届くように、自然史博物館普及係宛に申し込んで下さい。自然史博物館ホームページからも申込みできます。

<特別行事>

「友の会秋祭り たねとたまごを使って遊ぼう」

タネやタマゴは、私たちの生活の中で、いろいろな役に立っています。タネから油をしぼったり、わたを取ったりして、タネやタマゴと私たちの暮らしとの関わりを体験してみましょう。午後からは植物園で植物のタネ探しゲームをします。

日時：平成27年10月11日（日） 午前10時～午後3時頃

場所：自然史博物館および長居植物園

定員：200名（定員を超えた場合は抽選）

対象：どなたでも参加できます（小学生以下は保護者同伴）。 団体参加は不可。

参加費：一人300円程度（友の会会員は100円引き。参加人数によって金額は多少変わります）。この他に博物館入館料が必要。

申込締切：9月25日（金）

※ホームページでの受付開始は平成27年8月1日（土）からです。

その他：雨天の場合はプログラムを変更して実施します。抽選の結果や参加方法などは返信でお知らせします。

<子どもワークショップ>

「おしえてハカセ 鳥たまご」

鳥のタマゴ、いろいろな色やもようがあるね。まんまる、ほそなが、不思議な形も発見。タマゴと巣には、どんなヒミツがあるのかな？ハカセと一緒に話して、タマゴと巣をあてっこしてみよう。

日時：平成27年7月25日（土）・26日（日）、8月1日（土）・2日（日）

午前11時～、午後1時30分～、午後3時～（1回約60分のプログラムです）

場所：特別展会場・ワークショップスペース

対象：小学生以上（小学生にぴったりの内容です）

定員：各回15名

参加費：200円

受付：当日受付（各回15分前より開始）

保護者の皆さまへ：

- ・定員に余裕のある場合には、小学生未満のお子様もご参加いただけますが、必ず保護者の方がご同伴ください
- ・プログラムの内容と安全確保のため、定員になり次第受付を終了します
- ・途中参加はできません
- ・プログラムの終了時間は、お子様の制作ペースによって変わります
- ・高校生以上のプログラム参加や、お子様の付き添いで特別展にご入場の際は入場料が必要です

「実験！タネたねハカセ」

植物はどうやって広がっていくのでしょうか。飛ぶタネ、泳ぐタネ、はじけるタネ…？ハカセならではの道具を使って実験したり、観察したり。タネが生きのびる工夫を考えてみましょう。最後には、自分だけの実験ノートの出来上がり！

日時：平成27年8月29日（土）・30日（日）、9月22日（火・祝）・23日（水・祝）

午前11時～、午後1時30分～、午後3時～（1回約60分のプログラムです）

場所：特別展会場・ワークショップスペース

対象：小学生以上（小学生高学年にぴったりの内容です）

定員：各回15名

参加費：200円

受付：当日受付（各回15分前より開始）

保護者の皆さまへ：

- ・定員に余裕のある場合には、小学生未満のお子様もご参加いただけますが、必ず保護者の方がご同伴ください
- ・プログラムの内容と安全確保のため、定員になり次第受付を終了します
- ・途中参加はできません
- ・プログラムの終了時間は、お子様の制作ペースによって変わります
- ・高校生以上のプログラム参加や、お子様の付き添いで特別展にご入場の際は入場料が必要です

「くらべっこ たね・たまご」

展示室には、タネとタマゴがずらーり！すてきな色や形をじっくり見てみよう。タネとタマゴ、似ているところはあるかな？展示室でくらべて、スケッチしよう。

日時：平成27年8月8日（土）・9日（日）・15日（土）・16日（日）、22日（土）・

23日（日）、9月12日（土）・13日（日）

午前11時～、午前11時45分～、午後1時30分～、午後2時15分～、

午後2時45分～、午後3時15分～（1回約30分のプログラムです）

場所：特別展会場・ワークショップスペース

対象：どなたでも参加できます（小学生未満は保護者同伴）

定員：各回15名

参加費：無料

受付：当日受付（各回15分前より開始）

保護者の皆さまへ：

- ・定員に余裕のある場合には、小学生未満のお子様もご参加いただけますが、必ず保護者の方がご同伴ください

- ・プログラムの内容と安全確保のため、定員になり次第受付を終了します
- ・途中参加はできません
- ・プログラムの終了時間は、お子様の制作ペースによって変わります
- ・高校生以上のプログラム参加や、お子様の付き添いで特別展にご入場の際は入場料が必要です

<ギャラリートーク>

毎週土曜日に様々な分野の学芸員が、テーマを絞って特別展の展示解説をします。

日時：平成27年7月25日（土）[無脊椎動物（石田）]、8月1日（土）[植物（長谷川）]、8月8日（土）[魚（波戸岡）]、8月15日（土）[昆虫（初宿）]、8月22日（土）[昆虫（松本）]、8月29日（土）[鳥（和田）]、9月5日（土）[植物（佐久間）]、9月12日（土）[植物（塚腰）]、9月19日（土）[植物（佐久間）]、9月26日（土）[鳥（和田）]、10月3日（土）[植物（横川）]、10月10日（土）[恐竜（林）]、10月17日（土）[全分野]

時間：午後1時～1時30分。ただし、10月17日（土）のみ午後3時から3時30分

場所：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール

対象：どなたでも参加できます

参加費：無料（ただし、特別展観覧料が必要）

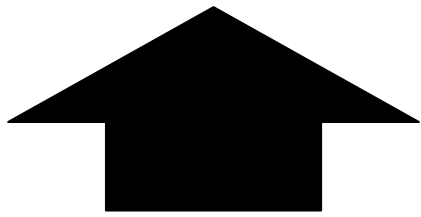
申込み：不要です、参加希望者は開始5分前までに特別展会場入口付近に集合してください。会場混雑時には、やむなく中止となる場合がありますのでご了承ください。

その他：テーマや担当学芸員は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

V. ブロガーの皆様ご招待について

特別展の広報に協力して頂けるブロガーの方 20 名を、開幕前日の一般内覧会、または開幕 2 日間のいずれかに無料でご招待いたします。

- ・一般内覧会：平成 27 年 7 月 17 日（金） 午後 2 時から午後 4 時 30 分まで（午後 1 時 30 分より受付開始）
- ・開幕 2 日間：平成 27 年 7 月 18 日（土）または 19 日（日） 午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（入場は随時、最終入館は午後 4 時 30 分まで）
- ・会場：自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター 2 階）
- ・参加頂ける方：以下の 2 つの条件を両方とも満たす方
 - ①ご自身でブログを開設されていること
 - ②ご自身のブログに特別展の紹介記事を必ずお書きいただけること
- ・申込：電子メールに「特別展ブロガー招待申込み」と明記、名前、居住地の都道府県名、電子メールアドレス、ブログタイトル、ブログ URL を書いて、平成 27 年 7 月 9 日（木）までに届くように自然史博物館 総務課宛に申し込んでください。平成 27 年 7 月 10 日（金）に抽選を行い、結果を申込者全員にメールにて返信させていただきます。当選者のみ参加方法等の詳細を合わせてお知らせいたします。
- ・その他：当日参加はできません。必ず申込みをしてください。
- ・問合せ／申込先：自然史博物館 総務課
電話：06-6697-6221 メール：s-nyukansha@ocmo.jp



F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館

総務課 広報 宛

TEL.06-6697-6222 FAX.06-6697-6225

〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

「たまごとたね —いのちのはじまりと不思議—」 プレス内覧会 取材申請書

プレス内覧会における取材をご希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、総務課広報宛にFAXにてご返信ください。

■ プレス内覧会

〔日時〕平成27年7月17日（金）
午後0時30分～

〔会場〕大阪市立自然史博物館
本館 集会室

※博物館通用口からお越しください。

※プレス内覧会に引き続き、午後2時より一般内覧会も開催いたします。



貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
人数（カメラ含む）	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. _____ FAX. _____ e-mail. _____



FAX. 06-6697-6225

<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館
 総務課 広報 宛
 TEL.06-6697-6222 FAX.06-6697-6225
 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

「たまごとたね —いのちのはじまりと不思議—」
 広報用画像申込書

- ・ご希望の画像に○印をつけ、下記にご記入のうえ、ご返信ください。
- ・画像使用は本展のご紹介のみとさせていただきます。使用後は、データを破棄してください。（平成27年10月18日(日)まで使用可）
- ・掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で総務課広報宛までFAXまたはメールをお送りください。また、掲載媒体を1部、総務課宛にお送り下さい。

No.	画像名	No.	画像名
1	タマゴとタネ	2	タマゴいろいろ
3	エミューのタマゴ	4	ダチョウのタマゴ
5	エナガのタマゴ	6	コルリのタマゴ
7	ウミガラスのタマゴ	8	スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の卵
9	海ぞうめん（アメフラシ類の卵）	10-a	ホウネンエビ
10-b	ホウネンエビの卵	11	アカニシとその卵のう
12	ネコザメのタマゴ	13	ドロメのタマゴ
14	ダイナンギンポのタマゴ	15	ルリタテハのタマゴ
16	コオイムシのタマゴ	17	ナミテントウのタマゴ
18	フタゴヤシ	19	アルソミトラ
20	タビビトノキ	21	海流散布のタネ
22-a	ツノゴマ	22-b	ライオンゴロシ
23	恐竜の卵化石		

貴社名・媒体名	
掲載・放送予定日	
所属部署／ご担当者名	
ご住所	〒
連絡先	TEL. _____ FAX. _____ e-mail. _____